



通信

HP 学校だより
R5.1.24
NO.36
文責 伊藤美佳



「お笑い」を通して

「6年生からのお知らせです。6年生のお笑いを楽しんでくれてうれしかったです。お笑いをぼくたちのようにやってみたいと思っている子たちがいることを知って、T-3お笑いグランプリを開催したいと思います。ネタ作りなどは6年生がお手伝いします。やってみたい子は20日までに・・・」この放送後、「やってみたい!」と応募したのは1年生から6年生までの24組(67名)。自分からやりたいと応募した子、友達に誘われたとはいえ「やってみよう」とチャレンジすることを決めた子がこんなにたくさんいることに驚きました。今から「ネタ作り(チーム)」→「練習(チーム)」→「お互いを見合って修正(全チームで)」→「リハ(舞台上)」→「本番」という順に進んでいくそうです。チームで話し合い、協力し合って人を笑顔にできる経験ができるといいなと思います。

「お笑い」をすることによって、子どもたちにどんな力がつくのでしょうか?実は、人を笑わせるということはとても難しいことです。なぜなら、その人その人で笑うポイントが違うからです。1年生と6年生でも違うでしょうし、大人ならなおさらです。笑うポイントが違う人たちのことを考えてネタを作らなければなりません。これは、生きた言葉の学びです。また、コンビ、チームでネタを考えたり、練習したりとコミュニケーションをしっかりとらなければなりません。自分だけであるものではないので、仲間と「折り合い」をつけたり、ときには自分が「我慢」したりすることも経験できるかもしれません。そして、6年生と一緒に考え、練習に付き合ってくれることも、大きな喜びだと思います。6年生のお笑いを見て、やってみたいと「あこがれた」子たちが応募してきているので、6年生と一緒に考え、アドバイスしてくれることは、心に残る交流となるでしょう。

本番まで、たくさん「かわり」をもって、人を笑顔にする喜びを味わってほしいと思います。



駅伝大会

3年ぶりに幸田町ファミリージョギング大会・駅伝大会が22日(日)に開催され、晴天の中、ジョギング大会に出場されたご家族もいらっしゃいました。駅伝大会には、チャレンジしたいと応募した5組が出場しました。マラソン大会では、自分との闘いがメインとなります。しかし、駅伝大会では、「仲間をたすきを届ける」という思いを味わうことができます。仲間のためにいつも以上の力が出せた子もいたかもしれません。何より、町内の小中学校、一般の人とともに走ることができた経験がとても大きいと思います。入賞して喜びを仲間とともに味わった子、仲間とともに走れた喜びをかみしめた子、悔し涙を流した子など、それぞれの思いを受けて次のステップに進んでくれることを期待します。

小学校男子 5位入賞 しゅんそくスパイダーボーイ おめでとう!